

キャラクターでつなげる地域の輪プロジェクト(Circle of Characters)

プロジェクト代表者:大矢 繁夫 プロジェクトリーダー:川本 雅史

1. プロジェクトの目的・概要

「キャラクターでつなげる地域の輪プロジェクト」は、しりべし地域を中心として北海道の広域連携を進めるプロジェクトです。組織間の連携協定や人脈形成を通して、短期間に多くの地域をつなぐのは極めて難しいことから、「組織」や「人」ではなく、「**ご当地キャラクター**」を媒介として、地域に対して①「**具体的**」であることと、②「**直接的**」であることを心がけて取り組みました。

2. 具体的な取組内容

① ご当地キャラトレカ

ご当地キャラの知名度向上と、地域情報の発信のために、市町村のキャラクターに1件1件直接お声掛けし、次の3区分でトレーディングカードタイプの情報発信カードを作成しました。

- ①-1: しりべしエリア ①-2: 北海道新幹線エリア
①-3: 札幌エリア

② ご当地キャラシールリレー

実際に観光客の周遊地域及び滞在期間の増加を促す具体的な取組として、しりべし地域18市町村と連携したスタンプラリー形式の地域周遊促進イベントを企画して主催しました。

③ ご当地キャラキャンディ

北海道の地元企業である「石屋製菓」と連携し、北海道新幹線のキャラクターを含む6種類のキャラのMIXキャンディを開発し、イベント等で効果的に活用しました。

④ しりべしオールスターズ企画

①-1のトレカがしりべし地域全20市町村との連携を達成したことを記念して、20市町村のキャラクターを新たに描き起こし、地域の連携感・一体感の強いオリジナルグッズを作成しました。

⑤ 小樽イベント連動企画

①のトレカが日本語版のみであり、外国人観光客への効果が薄かったことから、「小樽雪あかりの路」開催期間に、小樽観光協会と連携して4言語の多言語化ポップを作成して周知するとともに、地元特産品にトレカを販促品として添付し、販売促進効果の測定を実施しました。

3. プロジェクトの成果及び地域への還元

ご当地キャラトレカの作成において、①-1については、しりべし地域全20市町村との連携を達成し、①-2については、新幹線開通予定地の市町村全てをつなぐとともに、北斗市及び木古内町との連携により、新幹線開業日からJR駅及び道の駅でトレカを配布しています。また、①-3では、札幌・帯広で2017年に開催される冬季アジア大会のキャラを含め、複数のコラボが実現しており、トレカの種類は平成26年度末の13種類から、**59種類**まで拡大しています。

②については、のべ**3万人**の観光客がイベントに参加するなど成功しており、③については、「道外や海外での観光イベントで使用したい」という地域の要望に基づいて提供し、北海道のPRに貢献しています。④については、オリジナルグッズを地域のアイディアに基づいて無償提供することをマスコミを通じて報道しており、適宜提供しています。⑤については、この企画により商品の売り上げが前年比**156%増**になるなど、具体的な成果が確認されています。

